

京都大学大学文書館研究紀要

第 20 号

論文

「国立大学管理法案」の起草経緯(下) 西山 伸 < 1 >
—「国立大学管理法案要綱試案」作成から「国立大学管理法案」提出まで—

論文

変化する組織が生み出す記録資料群の編成と記述： 橋本 陽 < 15 >
京大・シリーズ・システムの試行

論文

高橋和巳の知識人論 渡辺 恭彦 < 31 >
—「わが解体」まで—

資料紹介

西田直二郎日記(3) 入山 洋子 < 51 >

『京都大学大学文書館研究紀要』編集要項< 113 > 編集後記< 114 >

京都大学大学文書館

2022年 3月22日

『京都大学大学文書館研究紀要』編集要項

1. 京都大学大学文書館に、京都大学大学文書館研究紀要（以下、「研究紀要」という。）の構成および内容に関する基本的計画の立案その他編集の総括を行うため、京都大学大学文書館研究紀要編集委員会（以下、「編集委員会」という。）を置く。
2. 編集委員会に委員長を置き、大学文書館長をもってあてる。委員は大学文書館教員とする。
3. 研究紀要には、京都大学および高等教育の歴史、アーカイヴズ論等に関する論文、研究ノート、資料紹介、書評等を掲載する。
4. 論文は、400字詰原稿用紙換算で60枚以内、研究ノートは40枚以内、資料紹介は80枚以内、書評は20枚以内とする。ただし、編集委員会で特に認めた場合はその限りではない。
5. 研究紀要に執筆することができるのは、京都大学大学文書館の教職員のほか、学内外を問わず編集委員会で選任して依頼した者、執筆を希望して編集委員会で認められた者とする。
6. 原稿は原則として未発表のものに限る。

編集後記

『京都大学大学文書館研究紀要』第20号をお届けします。

新型コロナウイルスがなかなか収束せず先行きが分からない中で、ひとつの区切りとなる第20号を発刊できたことに安堵しております。

西山論文は、前号に掲載された上篇の続編になります。下篇では、第二次試案、第三次試案が作成されるまでに大学内外から寄せられた意見を緻密に分析し、国会提出される法案に反映された論点を明らかにしています。各大学や関連団体が求めている大学像を探るには、必須の論文といえるでしょう。

橋本論文は、アーカイブズ学の観点から京都大学大学文書館の課題点を指摘したうえで、オーストラリアのシリーズ・システムを京大文書館に採用するという実践的提言を掲げたものです。

渡辺論文は、高橋和巳の「わが解体」(1969)が書かれた状況を検証しつつ、高橋の主張する「公開性」や「自己否定」が知識人論に即したものであることを明らかにしました。

資料紹介は、前々号、前号に引き続き、当館所蔵の西田直二郎日記を扱いました。今回翻刻した1928、29、34年の日記からは、学内外の委員を複数務めるとともに国民精神文化研究所に入所するなど、西田が一歴史学者にとどまらない活動に踏み込んでいったことが窺えます。

今年6月に、京都大学は創立125周年を迎えます。『京都大学125年史』の刊行も予定され、当館所蔵資料をもとに編集執筆が進められています。各部局で現用されている公文書がゆくゆくは当館に移管され特定歴史公文書として保管されることを考えますと、当館は大学の動きが歴史化される只中に立つ研究機関であるといえます。文書館活動の成果である『125年史』も、このような観点から読んでいただければと思います。

今後とも京都大学大学文書館の活動および本研究紀要に忌憚のない御意見をいただけますと幸いです。

(大学文書館助教 渡辺 恭彦)

京都大学大学文書館研究紀要 第20号

2022(令和4)年3月22日発行

編集 京都大学大学文書館研究紀要編集委員会

発行 京都大学大学文書館

〒606-8305 京都市左京区吉田河原町15-9

電話 075(753)2651

印刷 ヨシダ印刷株式会社

〒532-0011 大阪市淀川区西中島5-8-3

新大阪サンアールビル北館6階

電話 06(6305)7888

Research Bulletin of Kyoto University Archives

No.20

ARTICLE

The Process of Drafting “University Control Law” (2)

NISHIYAMA Shin < 1 >

ARTICLE

Arranging and Describing Records of Creators with
Functional, Organizational and Administrative Changes:
A Trial of the Kyoto University Series System

HASHIMOTO Yo < 15 >

ARTICLE

Takahashi Kazumi’s view on the intellectuals:
to “Breaking down of myself”

WATANABE Yasuhiko < 31 >

MATERIAL

The Diary of Naojiro Nishida (3)

IRIYAMA Yoko < 51 >

Kyoto University Archives

2022. 3 . 22